

令和8年度 第3回 学校運営協議会 議事録

- 日時:2026年7月17日(金) 15:30～
- 場所: 第六中学校／第一応接室
- 参加:(委員)9名 (市教委担当者)1名 (事務局)1名
- 進行:担当委員 記録:担当委員 文責:担当委員

1. はじめに(進行確認)

- 本日の進行手順について、次第の順序に沿って「報告・協議」を進めながら、適宜質疑応答や提案を行うことが確認された。
- 前回(R08②)の振り返りとビジョン・スローガンの再確認
 - 3つのビジョン:
 1. 学校の主体性を守り、教育に専念できる環境の提供
 2. 生徒が主役となり、地域とつながる参画型運営の構築
 3. 「対話」と「探究」を軸とした地域の学び舎の実現
 - スローガン:「Make Your Color 共に問い 共に深める 地域の学び舎」
 - 今後の協議会レジュメの最上部にこのビジョン・スローガンを常置し、議論の方向性を揃えていく方針が共有された。

2. 報告・協議

(1) 1学期の様子(報告:校長)

- 体育大会
 - 種目選択制を導入し、全員一律の負担や苦手な生徒がさらし者になる状況を回避する形式へ刷新。
 - 安全面に最大限配慮し、体育大会に対する不登校生徒は本年度ゼロを達成。
- SEL(ソーシャル&エモショナル・ラーニング)の導入
 - 生徒指導提要に基づき「SEL-8S」プログラムを導入。全教員が研修を受け、自己理解・他者理解・感情コントロールなど8項目を学ぶワークシート学習を実施中。
- 生徒・校内・地域の取り組み
 - ジュニア研修部:3年生代表生徒が主体的に広報データを作成・発信。
 - 人権教育:各学年で人権課題に取り組む。1学期は1年「性教育」、2年「女性」、3年「ネット」
 - 哲学対話:テーマをそれぞれ1年「当たり前って何?」、2年「なぜ働くのか?」、3年「どんな人間になりたいか?」と設定して実施。
 - 保護者発案のコンサート:MORIルームにてコントラバス・ピアノ・チューバの演奏会を開催(約100名参加)。
 - 国際交流:イギリス出身のダニエル先生が来校し、生徒と交流。
- サッカー部の部活動地域移行(民営化事例)

- 9月より全面実施予定。OB会が母体となり法人化した「調布六中サッカー部後援会」が、地域企業の協賛や個人賛助会員の会費によって運営基盤を整え、保護者負担を抑えた運営構造を構築。
- プロのメディカルトレーナーによるメンテナンス等も実現しており、都教委からも注目されている先進事例。
- **その他部活動の地域移行・外部連携の状況**
 - **囲碁部**:市の生涯学習課の先行事業として予算が付き、世界的なプロ棋士や囲碁連盟の指導を受けられる体制を構築。
 - **課題**:テニス・バスケットボール等で土日の指導者不足が課題となっており、人材確保の仕組みづくりが必要。

(2) 学校評価アンケートの進捗

- **見直しの経緯と形式変更**
 - 主観的・個人的な感想の集計から脱却し、学校の具体的な取り組みの効果を測る形式へ整理。
 - 精神的負担や個人攻撃につながる自由記述欄を精査・縮小。
- **アンケート結果の主なポイント**
 - **肯定的な結果**:学校便り・HPの情報発信(問10)、地域学校協働本部の貢献度(問11:生徒の約9割、保護者の8割超が肯定評価)で高い数値を維持。
 - **生徒の主体的学び(問4)**:生徒自身の自己評価が高く、自発的な学習環境が整っている傾向。
 - **読書習慣(問8)**:依然として課題傾向にあるが、前年までと比較し意識の変化が見られる。
 - **人権・人間関係(問23)**:生徒の「全く当てはまらない(緑)」回答に着目し、孤立感や不調を抱える生徒への個別フォロー・危機介入のあり方を検討。

(3) 「自殺防止教育」と本校での対策・協議

- **背景と現状(保護者会での説明内容含む)**
 - コロナ禍以降、全国的に中高生の自殺数が増加傾向にあり、特に女子の割合が増加(SNSでの共感・焦点化等の要因)。
 - 原因・動機が不開示・不明のケースが約半数を占め、いじめ起因は全体の約2%にとどまるため、「いじめ対策のみでは防ぎきれない」現状がある。
 - 改正自殺対策基本法(R7年6月公布)により、学校の責務・教育の一環としての予防推進が明記された。
- **学校での取り組みと今後の方向性**
 - 宿題の負担軽減、相談窓口(長期休業前の校長室解放・アポなし相談等)の設置、SELによる自己感情コントロール能力の育成を実施。
 - 自殺遂行リスク(危険信号)の早期察知と家庭との連携(刃物・紐類の管理等)。
 - **サードプレイス(第3の居場所)の提供**:教員・保護者以外の「斜めの関係」となる大人(地域ボランティア、大学生、CS委員等)との緩やかなつながり(PTA室(兼 地域学校協働本部室)やMORIルームの活用、リフレクションカードを使ったコミュニケーション 等)を通じた下地づくりの推進。

- 自殺防止対策に関する協議・情報交換の場を、本学校運営協議会の中で継続的に持っていくことで一致。

(4) 地域学校協働本部から「地域未来塾」「授業補助」に関する活動報告

- 英検・漢検対策および学習支援
 - ICU(国際基督教大学)等の学生ボランティアを活用した自習サポート教室の実施。二次試験対策(模擬面接)では合格率9割超の高い成果を達成。
 - 7月前半の英語授業(全13コマ)へ大学生ボランティアが授業ヘルパーとして入る学習支援を実施。
- 数学ステップアップ教室
 - 概ね月2回(水曜日)の放課後、地域のボランティア講師による自習サポートを実施中。

(5) 調布市教育委員会担当者からのコメント

- 調布市全体で「学校評価」の質の向上(自己評価・関係者評価の一体化や地域連携)に注力している。
- 六中の協議会は非常に具体的かつ実質的な協議が行われており、先進的で質の高い運営がなされていると評価。

3. 連絡事項

1. 次回予定

- 第4回 学校運営協議会(CS④):2026年10月30日(金) 15:30～

2. 今後の主な校内行事スケジュール

- 9月20日(土):見学会(小学生対象・生徒会対応)
- 9月28日(日):学校説明会(近隣小学生保護者対象)

以上